



いもち病に極めて強い水稻新品種 「中部134号」を開発

— 良食味で極早生の中山間地向き水稻品種 —

開発の背景・ニーズ

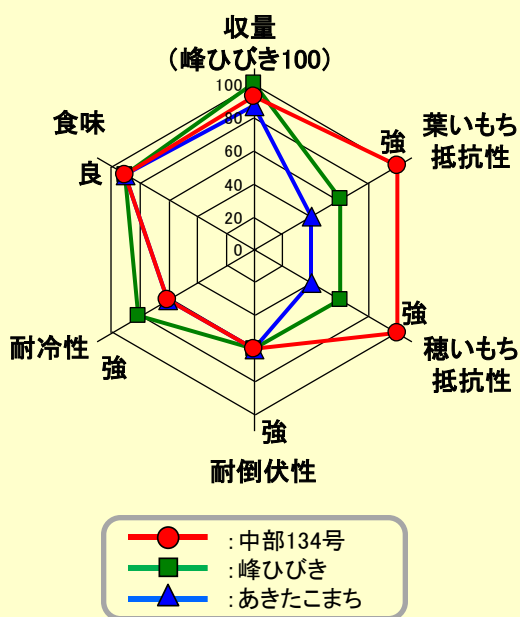
愛知県の標高650m以上の中山間地域で主に栽培されている「峰ひびき」、「あきたこまち」は、この地域で発生し易い「いもち病」に対する抵抗性が十分でないため、収量、品質が不安定でした。そこで、いもち病に極めて強く、良食味で極早生の水稻新品種を開発に取り組みました。

成果の内容

DNAマーカー選抜を活用したことで、通常の品種育成に要する期間のおおよそ半分の7年5ヶ月で品種を開発することができました。

平成25年8月に育成を完了し、11月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。新品種の特徴は

- (1) 極早生品種で初めて2つのいもち病圃場抵抗性遺伝子 (*Pb1*及び*Pi39*) を導入することに成功しました。葉いもち及び穂いもち病に対して極めて強い抵抗性を持っているため、いもち病に対する薬剤防除は不要です。
- (2) 「あきたこまち」を基に育成したため、極早生で食味が優れています。



中部134号の特性



いもち病無防除激発圃場での栽培状況 (左:あきたこまち、右:中部134号)



玄米の形状

愛知県農業への貢献

いもち病が発生し易い中山間地域でも、いもち病の無防除栽培が可能で、消費者の求める安全・安心ニーズに応えることが可能になります。また、薬剤コストが低減できるため、栽培農家の収益性向上にも貢献できます。

【農林水産省の「指定試験事業」及び「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で実施した成果です】